

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 1日

事業所名 ILIS CLUB 松原

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個室が3つあり、フロアも広々とした空間です。	
	2	職員の配置数は適切である	○		保育士4名、言語聴覚士1名、児童指導員3名が在籍しています。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		スロープや手すりを配置し、段差も少なく、エレベーターが完備されています。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日、掃除と消毒を行い、子ども達が過ごしやすい環境作りを目指しています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		定期的に話し合いの場を設け、職員同士のコミュニケーションを大切にしています。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	第三者による外部評価は行えてないが、社内での内部監査を行っています。	
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		社内全体、事業所内で定期的に研修を行っています。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		計画に沿った支援が行えるよう、細目に職員間で情報共有を行っています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		事業所会議や朝礼で活動プログラムについて話し合いの場を設けています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		一人が決めるのではなく、毎日療育内容を決める職員を変え、朝礼時に職員間で今日の療育内容について意見を出し合い、固定化しないようにしています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて児童発達支援計画を作成している	○		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼は毎日行い、その日のリーダーが主となって、支援内容を確認している。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼は毎日行い、当日出勤した職員で情報共有を行い、朝礼終礼ノートに記入しています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		業務日報だけでなく、朝礼終礼ノートにも支援内容や改善点など記入しています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		医療的ケアが必要な児童は現在通っていないが、受け入れる場合もあるため、連携した支援を行えるよう、連携体制を整えておきます。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		今後、医療的ケアが必要な児童の支援を始める時は医療機関と連携を整えます。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		情報共有、相互理解を図れる園はあるが、相互理解が難しいこともあるので、積極的に情報共有を図っていきたいと思います。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		情報共有ができていないことがあるので関係機関との関係性を深めて行けるようにします。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		全社員が様々な研修に積極的に受講しています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		コロナや様々な感染症などの流行があるため、交流の機会はないが、関係性は深めて行っています。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			電話連絡や送迎時、連絡帳を通じて子どもたちの成長や課題などを伝えるようにしています。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		ペアレント・トレーニングについて学ぶ機会を設け、知識の向上を図っています。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		見学や体験、契約時に必ず説明させて頂いています。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○				

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		保護者様から悩みや相談があった時はしっかりお話を聞く時間をもち、迅速に対応するようにしています。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今はコロナで自粛していますが、終息し、安心できる状況下で開催したいと思っています。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		保護者様からの相談や申入れには迅速に対応するようにしています。	
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		おたよりやインスタグラムなどで活動の様子や行事予定などを発信しています。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○		個人情報の漏洩を防ぐため、書庫に鍵をかけ厳重にしています。	
	39 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		視覚的にわかりやすく伝えることができるよう配慮しています。	
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		コロナ流行の為、事業所行事への招待は出来ていないが、今後、地域との関わりを持つ機会を増やしていきたいです。
非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		毎月、様々な災害を想定し、避難や防災、感染症などを想定した訓練を実施しています。	
	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月、計画し訓練を実施しています。	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		服薬やてんかん、アレルギーのある児童は表を作り、全スタッフが把握できるようにしています。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		全児童に定期的アレルギーに関するアンケートをとっています。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットがある場合はすぐに作成し、全スタッフと共有するようにしています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を設立し、全職員が虐待防止についての研修を必ず受講しています。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		身体拘束に対しては保護者様と十分に話し合い、了承を得た上で支援計画に記載していきます。(現在は例がないです)

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。